

第4回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)4月20日(火) 18時00分～19時30分		
場所	長野県伊那合同庁舎 講堂 (傍聴者は501・502会議室も使用)		
出席	懇話会構成員26名		
欠席	田中 章	傍聴者	傍聴22名、報道5社
事務局	伊那北高校	山岡教頭(事務局長)、大石教諭、倉石教諭、斎藤教諭、山崎教諭	
	伊那弥生ヶ丘高校	藤澤教頭(副事務局長)、唐澤教諭、濱田教諭、春日教諭、原教諭	
	県教育委員会	上原主幹指導主事、田中主任指導主事、石井主事、浅井主事	
当日資料	第4回懇話会次第、構成員名簿、第3回懇話会まとめ、伊那新校学校像のイメージ、伊那北高校における学びの実践、伊那弥生ヶ丘高校における学びの実践について		

会議事項

- 1 報告 (1) 第3回懇話会まとめ (2) 第2回校地検討部会報告
- 2 会議 (1) 伊那北高校、伊那弥生ヶ丘高校の取組の発表 (2) 意見交換(伊那新校の学びのイメージについて)
- 3 連絡事項 次回予定(令和3年5月28日)

伊那北高校、伊那弥生ヶ丘高校の取組の発表及び意見交換

【伊那北高校、伊那弥生ヶ丘高校の取組の発表】

(伊那北高校) <探究的な学びの取組について>

○時代の流れが速く、先が読めない時代の中でこれに対応できるような人材の育成。協働して、自分から考え動くことができる生徒の育成。生徒はいい能力をもっている、これを最大限生かせるような学び。

<新校の学びのイメージに向けた現在の取組>

○令和4年度より新教育課程が実施される。普通科に特色を出すことを考えている。ディスカッションやグループワークを取り入れた主体性、協働性などの学ぶ姿勢を身につけさせる授業。

○本校生徒が指導者になり、中学生に実験を教えるクロスペンアカデミー教養講座を開講。

○大学入試が知識のみではなくなっている。思考が重視されてきており、これにも対応した授業を行っている。また、多様な進路への対応も検討し、教育課程を編成。県内でもよい進路実績を出している。

(伊那弥生ヶ丘高校) <探究的な学びの取組について>

○探究的な学びを意識した取組を行っている。郷土愛プロジェクトの方々が来校され、地域課題の解決を共に考える授業を行っている。自分たちに何ができるかを探り、2年次に発表。

<新校の学びのイメージに向けた現在の取組>

○1、2年生で今年度よりiPadを導入。来年度入学生もiPad導入予定。ロイロノートを探究でも通常授業でも活用。

○平成28年度より進学実績が伸びてきている。実用英語検定やGTEC(英語4技能を試す試験)への受験推奨が大きな要因と考えている。

○国際・グローバルへの対応としては、今年度からWWLへの参加。

【意見交換】(伊那新校の学びのイメージについて)

○現在も様々なプログラムを行っていただいていることは、理解できた。

○この地域の企業に興味・関心を持ち、卒業後の経済等の情勢がどうなっているか考える機会を持ってほしい。

○自分たちに何ができるのか、若い皆さんがどういった地域をつくりたいのか、そういう部分を共有したい。

○県外の大学に進学しても基本的には地域に戻ってくる。全体としては上伊那地域を活性化したいという生徒が多い印象である。医療系志望者の多くの生徒達は地元へ戻って医療現場等で活躍する者が多い。

○大学へ進学し、多くが大学院へ進学して、在学中に地元企業への就職を希望する者もいるが、全国幅広い場所で活躍を考えている卒業生も多い。

○地元で活躍しようが世界で活躍しようが、その人が多感な時期にどのような地域に生まれ、その地域に対しどのような思いをもつのが大切。

○先生方は新しい学びを求めており、学びに向かっていく力をつけることが大切だと中学の教員も高校の教員も大切に感じている。

○地域を知ることがますます可能性を広げることにつながる。小中高は総合的な学習の時間、総合的な探究の時間で連携が可能。

○いろいろな人が関わるほど学びが深まる傾向にある。高校においても人と関わる学びが行われている。人生を切り拓くのにとても有効な学びである。

○新校をつくっていく上で、大人がこうあってほしいと考えることはいけないことではないが、子ども達がこうなりたい、こうでありたいと言うことが一番大切と思う。

今後の検討課題

○学校生活(生徒会活動、部活動等)の観点からの新校のイメージについての議論

○今社会が求めている人材から逆に、今の高校生にどういう力をつけさせるかという観点での整理